

十字架の詩

2011年4月17日 リバイブ・イスラエル・ミニストリーズ

アシェル・イントレーター

エルサレムにあるヘブライ大学聖書学部の学長であるヤイル・ザコヴィッツ氏は最近、「イエシュアが福音書を読む」(テル・アビブにあるアム・オベデ出版)という本をヘブライ語で出版しました。この本には71編の詩が含まれ、あたかもイエシュアご自身が書かれたかのように、第一人称で語っています。

ザコヴィッツ氏はイエシュアの「信者」ではありません。彼は聖書を「文書の批評家」として取り上げていますが、大抵非礼で冒涇的な取り上げ方をしています。しかし彼は「ヘブライ的な」または「イスラエル人としての」目を通してイエシュアを見ようと務めています。彼が「イエシュ」ではなく「イエシュア」という適切な名前を使うところから、彼の知的で真摯な姿勢が伺えます。

二十を超える詩は十字架刑の間のイエシュアの個人的な経験について語っています。ザコヴィッツ氏は大胆で、イエシュアについての本を書いただけでなく、特に十字架について強調しています。

十字架に対する大変誤ったイメージはまだユダヤ文化に優勢です。ヘブライ語で「十字架」という言葉はナチスの鍵十字(「ねじれた十字架」)を表すために使われます。十字架は反ユダヤ主義、迫害、そして異教の宗教のシンボルとなったのです。それゆえ、イスラエル人学者が十字架を歴史的な文脈の中で検証することは、重要な突破口なのです。

では、ザコヴィッツ氏の「十字架の詩」から、いくつかの例を見ていきましょう。(ヘブライ語を英語にイントレーター師が翻訳)ここで、イエシュアはご自分の思いを語っています。

十字架の美はその単純さにある
そして、私の痛みはそのただなかにそそがれる

(「そそがれる」という言葉は、「そそぎの捧げ物(訳注:聖書では「そそぎのぶどう酒」となっている)」の語根であり、「ただ中」という言葉は「実存、生命の最深部」のような意味です。)

別の詩でイエシュアは、主がまだ赤ん坊の時、ミリヤム(マリア)が主に向かって歌った子守歌を回想します。長い間主はこれらの歌を忘れていたが、十字架上で苦しんでいる時突然主の母の慰めのメロディーが主の記憶の中に漂いもどって来るのです。

ある詩はイエシュアが十字架の木の香りを嗅ぐという表現をします。主がそうすることによって、主の父ヨセフと共に木工所で仕事をしてきた記憶が戻って来るのです。

別の詩では、イエシュアはご自身が天と地の間に架けられているのとモーセがネボ山に立っているのと比較します。両方とも彼らが愛する聖なる地の幻を見るのですが、彼らはそれらを受け取ることができないのです。

最も心動かされる詩は、イエシュアが十字架に架けられている間、ホロコーストの幻を見るのです。

ここにわたしはいる、一人のユダヤ人として十字架にかけられ
わたしには黒い瞳があり、将来に向かって見据えている
そこに大勢のユダヤ人を数える、60 もの数え切れない、その 10 倍の数
彼らは引き裂かれ、撃たれ、そして焼かれる
彼らには墓もなく、十字架さえもない

(黒い瞳は主がセム系の外見を持つことを表します。60 もの数え切れない、その 10 倍とはホロコーストで亡くなった 600 万人を表します。)

別の詩でイエシュアは伝統的なユダヤの祈りであるニシュマツ(いくつかはシモン・ペテロによる)を引用します。それは口が歌で満たされ、腕は賛美に大きく開かれることを語っています。十字架上でイエシュアは、口があまりにも渴いて賛美することができず、腕は釘付けられたために広げられていると語っています。

私のお気に入りの詩は、イエシュアが十字架に架けられている間マタイ 23 章を引用するものです。

エルサレム、あなたの街、預言者たちを殺し、使徒たちを石で打つ
息子たちを縛って生贄として捧げ、あなたのひとり子を十字架にかける
あなたが愛されたひとり子
「父よ、父よ、どうしてわたしをお見捨てになったのですか」
わたしの父は黙ったまま微笑み、喜んで手をすり合わせた
なぜならすべてのことが主の基本計画の通りに進んでいるからだ

(「縛る」という言葉はアブラハムがイサクを縛ることを表し、「あなたが愛する子」の引用は創世記 22 章のイサクとヨハネ 3 章のイエシュアと比較しています。ザコヴィッツ氏による「どうしてわたしをお見捨てになったのですか」を父の沈黙と、成就するまでは主の贖いのご計画を秘密にしておくことと解釈したことにより、彼が十字架の意味を深く理解していることを示しています。)

最後の例です。斧で木を切り倒して十字架の木材とする際、すべての木はその首をこわばらせて切り倒されることを拒みました。イエシュアはある 1 本に対して、それが十字架になることによって、主とその木が再び花開くことを約束しました。

新約聖書の文書の歴史的な分析は今やイスラエルの大学で広がっています。ヘブライ的な十字架の理解が回復するにつれ、教会もユダヤルーツへと回復し、そしてイスラエルの救いとリバイバルも近くなります。

十字架の釘

アリエル・ブルーメンソール

最近のニュースで、イスラエル系カナダ人考古学者のシムカ・ジャコボヴィッチ氏は、大祭司カヤパの墓からローマ時代の釘を発見したと主張しました。その釘は「おそらく」十字架に架けられたイエスに使われた釘だと言うのです。ここ聖地で、私たち信者はそのような考古学的な発見にそれほど興奮するものではありません。それは、この地の遺物や像そして聖なる場所など様々な迷信に関する長い歴史があるからです。しかし、影響力のあるユダヤ人がイエシュアを個人、歴史、そして教えに対して純粋に魅了されていることを述べるのを見ると、私たちの心は躍ります。

二人のパレスチナ支持派の活動家

マティ・シヨシャニ

二週間前、俳優のジュリアノ・メル・カミス氏は「フリーダム・シアター（自由の劇場）」の前で銃撃されました。彼はパレスチナのジェニンの街で発見されました。

彼はパレスチナ人の父とイスラエル人の母との間に生まれ、積極的にパレスチナの支持を発言して来た人で、常にイスラエルに反する言動を取ってきました。彼のジェニンの若者たちとの活動は広く評価されていました。

金曜日、パレスチナ支持派の活動家ヴィットリオ・アリゴニ氏の遺体がガザで発見されました。その前の日イタリア人市民がイスラム過激派の分派によって誘拐され、それはハマスが所有する団体のあるメンバーと引き替えるためでした。テロリストたちは 30 時間の勧告を出しましたが、その時間が終わるはるか前にヴィットリオを殺害しました。

これら2件の殺人が示すメッセージによると、イスラム教過激派にとって、殺人と死は第二の天性であり、犠牲者が友人であろうと敵であろうとその身元に何の配慮もしないのです。